（様式第８号）

事業報告書（令和２年度）

事業名　「NPO・学校・地域の連携をによる青少年育成活動普及プログラム
～グッドプラクティスの波及による SDGs 達成を目指して～」

団体名　NPO 法人国際協力研究所・岡山　担当者名　副代表理事　竹島　潤

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

○グッドプラクティス１：NPO 学校連携事業「ぞうきんプロジェクト２」

これまで東日本大震災や西日本豪雨災害で現地活動および物資提供などに取り組んできた。そのノウハウと経験をいかし、今年度の九州地方はじめ豪雨災害地域などへの支援に岡山の中学生・中学校が、雑巾をはじめとした物資提供などで連帯できるようにした（写真右）。また取組を災害支援ネットワーク関連団体が主催する展示などで広報した。

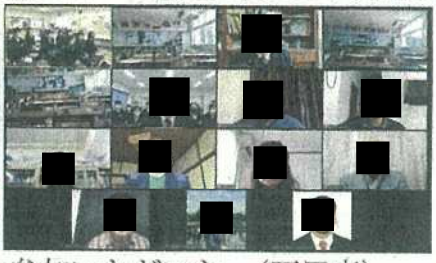
【第１次】７月７日（火）〆切 1,148 枚　旭東中・操南中・高松中・岡大附属中

【第２次】７月 31 日（金）〆切 1,081 枚 旭東中・桑田中・高松中・御南中・岡大附属中

また、８月には本プロジェクトを通して集まった一部を、継続的支援として真備町の川辺小学校さま、薗小学校さまに届けた（写真左）。

○グッドプラクティス２：International Meeting 2020（青少年国際交流事業）

岡山市内在住中学生が岡山および国外の留学生や外国出身の方々とオンライン会議システムを活用して、英語や日本語を用いて意見交換したり交流したりする機会をつくり、多文化共生の視点を育めるようにした。夏季は 7/18（土）、冬季は 12/19（土）に実施した。海外ゲストには日本国内在住地又は海外現地からオンライン参加いただいた。（両写真）



○グッドプラクティス３：東日本大震災追悼 10 周年事業

８月 20（木）「被ばく牛と生きる “Nuclear Cattle”」上映会＆トークセッション（於：西川アイプラザ）をおこない、広く市民および留学生や在住外国人を含む多様な方々約 50 名が参加し、作品鑑賞と大学教授・医師・高校生たちなど、多様なゲストのお話や質疑応答を通して、持続可能な環境および社会づくりについて考え、学び深められた。（チラシ写真）

（様式第８号）

○グッドプラクティス4：ESD for SDGs 特別講演事業

11/21（土）NPO ICOI 設立 10 周年記念大会にあわせて、大安喜一先生（アジア・ユネスコ文化センター教育協力部長）・髙次秀明先生（岡山文化芸術創造専務理事・法人事務局長／岡山シンフォニーホール館長）からの２大特別講演（下記①②）を行った。あらためて持続可能な社会づくりを目指す上で大切にすべきこと、つまり「ESD for SDGs における連携協働のあり方」と「文脈をいかした芸術文化の継承・変革」について知見を得ることができた。

※①「SDGs の視点からみる NPO・学校・社会の連携」（写真左）

講師：（公財）ユネスコ・アジア文化センター 教育協力部長　大安喜一氏

②「文化はまちづくりのインフラ」（写真右）

講師：（公財）岡山文化芸術創造 専務理事・法人事務局長／岡山シンフォニーホール館長　次秀明氏

○グッドプラクティス5：牛来美佳さん特別講演会＆コンサート

11/25（水）東日本大震災被災地の福島県浪江町ご出身のシンガーソングライターである牛来美佳さんを岡山市内中学校と蔭涼寺にお招きし、当時やその後の体験をお聞きした。復興や人々の心に寄り添うこと、ふるさとへの思いなどを学ぶ機会とした。市民が本テーマについて中学生の思いや考えを知る機会とした。（写真）

○グッドプラクティス６：多文化共生プログラム“明日も友達”（日本・トルコ友好）

西大寺会陽（はだか祭り）や花見などを計画していたが、新型コロナ感染拡大により実施や参加が不可能となった。しかし、岡山在住でトルコ出身の留学生との繋がりをいかした、「トルコ・ギリシャ沖地震義援金プロジェクト」を立ち上げ、日本（岡山市）とトルコ（イズミル市）の友好を促す機会とした。

（写真左から：トルコ料理店、義援金箱、トルコ地元ニュース）

２．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

いすれの取組も SDGs との関係性を計画および実施時に明示的に確認するようにすることで、ESD（持続可能な社会のための教育）の視点として、多面性、協働性、主体性などの重視すべき能力・態度を育もうと努めることができた。また、学校教育や中高校生などの参

加や意見共有を伴うようにすることで、世代を超えた意見交換や連帯が生み出される手立てとした。

今回、新型コロナ感染拡大の中でも、何を・どうするかを工夫しながら、臨機応変にプログラムや活動に取り組めたことがとてもよかった。また、取組の持続可能性を高めるために、参加したマルチステークホルダーとの間で来年度以降や次回の実施時にどのような工夫・改善ができるかを検討する時間を持てたことがよかった。

３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

グッドプラクティスとして、複数の学校教育現場で実践することで、地域を越えた青少年交流へのきっかけとすることができた。同じテーマや取組であっても、地域や子どもたちの経験・背景などで、考え方や行動は一様ではない。それを学び合う事も大変有意義であった。

また、学校や中高校生の感性や考え方、取組を知った大人世代、地域の方々が子どもたちのよさや中学生の地域活動における可能性に気がついてくれた。さらに、学校の役割が再認識されることにもなった。

すでに、当 NPO の取組に参加した中学生の中から、任意団体を立ち上げたり他 NPO・NGO などの活動に参加したりする者も出ており、今後こうした青少年層の社会活動を支援したり、繋いでいったりする意義も認識することができた。

４．今後の課題と展望

新型コロナ感染拡大、オンライン取組の拡大など、これまでとは異なる時代・社会の変化の中で、「不易流行」を見極めながらの取組が必要となる。特に、岡山市内学校現場では Chromebook などの情報端末環境は整備が進むと思うので、これを活用して非営利活動や社会活動が、学校現場とタイアップして青少年育成が進むように支援したい。

また、災害がどの国、地域でも起こりうる「人類共通の課題」であることを踏まえ、その背景にある気候変動や経済至上主義、持続不可能な行動様式や価値観などについて、未来を共に創っていく青少年層とともに考え、行動する機会を提供したい。また、それを支援するにあたって、現役社会人世代を巻き込みたいと考えている。多様な職種、経験、世代、国籍などを有するダイバーシティーが機能する組織と活動に、磨きをかけたいと思う。